

輸入	2006年度 (実績)		2007年度 (見込み)				2008年度 (見通し)		コメント		
	億円	伸率%	上半期 (実績)	伸率%	下半期 (見込み)	伸率%	億円	伸率%			
総額	684,158	+13.1%	362,885	+8.1%	379,123	+8.8%	742,008	+8.5%	748,829	+0.9%	
IM 食料品	57,941	+2.5%	30,432	+7.5%	31,546	+6.4%	61,978	+7.0%	63,402	+2.3%	野菜は残留農薬の問題から中国等からの輸入量減少、果実等は中国等の引き合いが強く、数量ベースのマイナス要因に。
魚介類	15,808	+1.4%	7,449	4.6%	7,560	5.5%	15,009	5.1%	14,030	6.5%	中国など海外での需要の高まり、一部品目の価格上昇、国内での水産物消費の減少より、数量ベースでの前年割れが続く。マゴロは、引き続き、主要輸入先である台湾からの減少が続く。
肉類	9,787	9.3%	5,247	+7.0%	5,246	+7.4%	10,493	+7.2%	10,980	+4.6%	豚肉は、国内での豚肉価格の高騰が続く(中国や高成長が続くロシアなど海外の引き合いが強く、さらに飼料価格も上昇しているため、価格が上昇。数量ベースでは、06年度ほどの落ち込みはない。
IM 原料品	49,443	+29.8%	29,483	+23.5%	23,000	10.1%	52,483	+6.1%	48,695	7.2%	下半期は鉄鉱石、非鉄金属鉱と価格の高止まりが継続するが、数量増進にとどまらず鉄鉱石が円高の影響で金額減少。
鉄鉱石	8,797	+28.1%	5,287	+24.4%	5,287	+16.3%	10,574	+20.2%	13,202	+24.9%	粗鋼生産量：07年度の粗鋼生産見込み1億1,550万トン(日本鉄鋼連盟発表)、鉄鉱石生産量：下半期は07年7月以降(SMI高炉巻き替え後)の24万トン/日と同水準と考え、182日×24万トン/日=4,368万トン、07年度8,706万トン、鉄鉱石輸入数量：上半期実績6,981万トンから年率換算し、07年度1億3,963万トン、鉄鉱石輸入価格：上半期の実績と同水準と考え、07年度7,573円/トン、粗鋼生産量は、下半期インドネシア鉱山の日本向け一部(インドネシア国内製錬への)の増産に伴う数量増等を反映し、07年度は微増の250万トンと見込む。金額は、鋼分30%、銅価7,500ドル/トン、為替は117円/ドルにて算出。
非鉄金属鉱	17,582	+51.9%	11,331	+33.6%	6,581	27.7%	17,912	+1.9%	12,500	30.2%	鉄鉱石は、数量横ばいながら価格上昇が寄与、非鉄金属鉱は、鉱山の影響で数量の増える見込みがなく、円高、価格下落の影響を大きく受ける。
IM 鉱物性燃料	184,900	+13.4%	97,330	+2.9%	121,110	+34.1%	218,440	+18.1%	219,314	+0.4%	上半期は、6割強を占める原油及び粗油の輸入が減少したため、2.9%増にとどまった。07年度通期では、下半期のエネルギー価格の高騰の影響を受け、金額が18.1%増。
原油及び粗油	114,107	+14.2%	58,948	1.8%	80,092	+48.2%	139,040	+21.9%	130,591	6.1%	上半期は国内の石油需要の減少に伴い、数量が5.2%減となった(金額は1.8%減)。一方、原油価格は大幅に上昇した。下半期も引き続き原油価格が高止まりすると予想される。数量は、電力用需要の伸び(軽油の廃止)を背景とした火力発電用燃料需要の増加)が予想されるため、下半期は増加に転じると考えられる。
石油製品	18,041	+9.9%	9,497	+6.7%	9,974	+9.2%	19,471	+7.9%	20,444	+5.0%	上半期の金額は6.7%増となった。電力用原燃のトラボラによる低硫黄重油の需要増等の影響で、下半期の金額も順調に増加し、07年度通期では7.9%増。
LNG	27,303	+26.0%	15,065	+15.1%	17,160	+20.7%	32,225	+18.0%	38,348	+19.0%	原油価格の高騰を背景にLNGの需要は世界的に高まっている。上半期は、輸入価格の上昇とともに、旺盛な需要を背景に輸入数量も6.5%増となった(金額は15.1%増)。電力用原燃のトラボラにより今冬のLNGスポット需要等により、輸入数量の増加傾向は引き続き見込まれる。LNG玉の供給が限定的であり、供給制約が引き続き継続する。下半期LNG価格は上昇。
LPG	8,944	+9.0%	4,771	+9.7%	5,100	+11.0%	9,871	+10.4%	9,970	+1.0%	上半期は、輸入価格が15.1%高となった反面、輸入数量は4.7%減となった(金額は9.7%増)。下半期は、原油価格が高値で推移する中、LPGの需要が増加に転じる。07年度通期では輸入数量が2.0%増、金額が10.4%増。
石炭	16,049	1.2%	8,669	+8.9%	8,701	+7.5%	17,370	+8.2%	19,467	+12.1%	輸入数量の増勢強まる。原料炭は、国内鉄鋼生産が高水準で推移したことから引き続き堅調な伸び、一般炭は、電力向け需要が底打ち、トル建て価格は、原料炭が需給緩和で低下傾向ながら、一般炭は逆に需給ひびきを反映し上昇に転じている。全体の入替では上昇傾向続く。
IM 化学製品	50,920	+13.9%	27,152	+10.5%	28,242	+7.2%	55,394	+8.8%	58,878	+6.3%	プラスチック、無機化合物の輸入価格の上昇は続いているが、有機化合物の輸入価格が07年度上半期に反落した影響などにより、全体の輸入金額の伸びは鈍化。
IM 原料別製品	68,730	+22.8%	38,017	+15.7%	39,000	+8.8%	77,017	+12.1%	77,300	+0.4%	下半期は建材需要の減退などで数量が伸び悩み、市況高や原産地のコスト上昇などから価格増加基調が維持され金額ベースでも増加。
鉄鋼	8,310	+9.5%	5,189	+39.2%	5,041	+10.0%	10,230	+23.1%	9,442	7.7%	総じて国内市況は安定した動きを示しており、ほぼ06年度並みの輸入数量になる。
非鉄金属	23,259	+47.9%	13,570	+23.4%	14,250	+16.2%	27,820	+19.6%	28,500	+2.4%	アルミは上半期こそ飲料向け地金の輸入が増加したが、下半期はザンなど住宅建材需要の減退でさえずり、白金は数量に変化はないが単価は20～30%上昇。
織物糸・繊維製品	7,185	+9.1%	3,730	+4.5%	3,645	+0.8%	7,375	+2.6%	7,615	+3.3%	原材料価格が高騰する中、原油高や中国における人件費高騰などのコストアップ要因が重なり、輸入価格が大幅に上昇。07年度上半期には数量ベースで減少に転じた。
非金属鉱物製品	7,217	+7.9%	3,582	0.1%	3,450	5.0%	7,032	2.6%	6,800	3.3%	ガラス及び同製品は、中国で政府が新規のフロントガラス工場建設のエリア制限を開始したものの依然建設ラッシュが続いており、供給過剰分は市況が高い東欧、ロシアに輸出されているため、日本の輸入は今後も減少傾向が続く。また、韓国では市場シェアの約20%を占める中国製フロントガラスにアタッチング工程を08年から譲渡することが決定したこと、修理のタイミングを迎える業がいくつかあり、需給が引き締まる方向に作用する。
IM 一般機械	62,852	+6.7%	32,387	+5.8%	32,273	+0.1%	64,660	+2.9%	65,235	+0.9%	主に入力コン等電算機類の数量は減少するが、07年度は関税率番号の組み替えにより金額は微増。
電算機類(含周辺機器)	20,146	5.8%	9,011	9.9%	9,692	4.4%	18,703	7.2%	19,011	+1.6%	パソコンの国内販売低迷の影響から数量の減少傾向が続く。下半期には底打ちの兆しのみみられたものの、2年連続減少に。
IM 電気機器	88,320	+13.2%	45,747	+8.0%	48,164	+4.8%	93,911	+6.3%	100,274	+6.8%	通信機的好調、半導体等電子部品の堅調により、金額は小幅増加。
半導体等電子部品	29,005	+14.6%	14,118	2.1%	14,860	+1.9%	28,978	0.1%	30,500	+5.3%	上半期下落した半導体市況だが、下半期はDRAMを中心に価格下げ止まりへ、数量では、パソコン、携帯向けは弱含むものの、テレビを中心として家電向けは堅調に推移。
IM 輸送用機器	23,146	+6.7%	12,757	+13.0%	12,366	+4.3%	25,123	+8.5%	26,450	+5.3%	自動車は2年ぶりの上昇となり増加。また、シートベルトやエアバッグなど自動車生産部品のアジア(タイ、中国、ベトナムなど)からの調達が増加。
自動車	8,865	6.7%	4,955	+12.5%	5,020	+12.5%	9,975	+12.5%	9,477	5.0%	外国メーカーは新型車を投入したブランドが必要押し上げに寄与、輸入の割合を占める海外生産日本メーカー車が50%以上の増加。
航空機類	6,346	+13.4%	3,410	+6.6%	2,288	27.3%	5,698	10.2%	5,821	+2.2%	航空会社への引き渡し時期の変動により、減少。
IM その他	97,905	+11.2%	49,580	+4.8%	43,422	14.2%	93,002	5.0%	89,281	4.0%	科学光学機器では、液晶ディスプレイの減少が、在庫調整、携帯電話端末の販売奨励金見直しの影響でしばらく(見込み、その他)の製品では、中国からのゲーム機が増加しているが、下半期は伸び率鈍化。
衣類・同付属品	27,608	+7.7%	14,359	+4.6%	14,422	+3.9%	28,781	+4.2%	29,770	+3.4%	梅雨明けの遅れや残暑の長期化等の天候不順による衣料品の売れ行き不振から、上半期には数量ベースで減少に転じた。原油高に伴う原材料費の上昇、中国の人件費高騰による加工費の上昇、ユーロ高コストアップ要因が重なり、輸入価格の上昇傾向が顕著。
製品輸入	391,874	+12.8%	205,640	+8.8%	203,467	+0.3%	409,107	+4.4%	417,418	+2.0%	製品輸入比率55.1%(06年度比マイナス2.1ポイント)

*金額は千万円単位を四捨五入、ただし前年度比増減率(%)は百万円単位の数値を使用

*「+」は前年度比増加、「-」は減少、「」は増減は(前年度比±1%未満)を表している